

一万葉集の題詞と左注にみえる大伴氏の居宅と所領一

【坂上】

大伴宿禰家持、同じき**坂上の家**の大嬢に贈る歌一首

(04-0403 題詞 詠み人：大伴家持)

大伴宿禰駿河麻呂、同じき**坂上の家**の二嬢を娉ふ歌一首

(04-0407 題詞 詠み人：大伴駿河麻呂)

右、郎女は佐保大納言卿が女なり。初め一品穂積皇子に嫁ぎ、寵を被ることたぐいひなし。しかして皇子の薨ぜし後に、藤原麻呂大夫、郎女を娉ふ。郎女、**坂上の里**に家居す。よりにて族氏号けて坂上郎女といふ。

(04-0525～0528 左注 詠み人：坂上郎女)

右、田村大嬢は、ともにこれ、右大弁大伴宿奈麻呂卿が女なり。卿、**田村の里**に居れば、号づけて田村大嬢といふ。ただし、妹坂上大嬢は、母、**坂上の里**に居る。よりにて坂上大嬢といふ。時に姉妹、諮問ふに歌をもちて贈答す。

(04-0756～0759 左注 詠み人：田村大嬢)

【竹田】

大伴坂上郎女、**竹田の庄**より女子大嬢に贈る歌二首

(04-0760 題詞 詠み人：坂上郎女)

大伴坂上郎女、**竹田の庄**にて作る歌二首

(08-1592～1593 題詞 詠み人：坂上郎女)

大伴家持、姑**坂上**の郎女が**竹田の庄**に至りて作る歌一首

(08-1619 題詞 詠み人：大伴家持)

【田村】

右、田村大嬢は、ともにこれ、右大弁大伴宿奈麻呂卿が女なり。卿、**田村の里**に居れば、号づけて田村大嬢といふ。ただし、妹坂上大嬢は、母、**坂上の里**に居る。よりにて坂上大嬢といふ。時に姉妹、諮問ふに歌をもちて贈答す。

(04-0756～0759 左注 詠み人：田村大嬢)

【佐保】

右、郎女は**佐保**大納言卿が女なり。初め一品穂積皇子に嫁ぎ、寵を被ることたぐいひなし。しかして皇子の薨ぜし後に、藤原麻呂大夫、郎女を娉ふ。郎女、坂上の里に家居す。よりにて族氏号けて坂上郎女といふ。 (04-0528 左注 詠み人：坂上郎女)

右、坂上郎女は**佐保**大納言卿が女なり。駿河麻呂は、この高市大卿の孫なり。両卿は兄弟の家、女と孫とは姑姪の族なり。ここをもちて、歌を通して送り答へ起居を相聞す。

(04-0649 左注 詠み人：坂上郎女)

天皇に献つる歌一首 大伴坂上郎女、**佐保の宅**に在りて作る

(04-0721 題詞 詠み人：坂上郎女)

大伴坂上郎女、姪家持の**佐保**より西の宅に還帰るに与ふる歌一首

(06-0979 題詞 詠み人：坂上郎女)

右の一首、天平四年の三月の一日に、**佐保の宅**にして作る。

(08-1447 左注 詠み人：坂上郎女)

【跡見】

大伴坂上郎女、**跡見の庄**より、宅に留まれる女子、大嬢に賜ふ歌一首并せて短歌

(04-0723 題詞 詠み人：坂上郎女)

典鑄正紀朝臣鹿人、衛門大尉大伴宿禰稻公が**跡見の庄**に至りて作る歌一首

(08-1549 題詞 詠み人：紀鹿人)

大伴坂上郎女、**跡見の田庄**にして作る歌二首

(08-1560～1561 題詞 詠み人：坂上郎女)

【他】

天皇に献つる歌一首 大伴坂上郎女、**春日の里**に在りて作る

(04-0725～04-0726 題詞)

大伴坂上郎女、姪家持の**佐保**より西の宅に還帰るに与ふる歌一首

(06-0979 題詞 詠み人：坂上郎女)